

市長との対話集会

〜タウンミーティング〜

今回は、観光・環境についての話題です。

前号に引き続き、四・五月に各地域で行われました「市長との対話集会」での内容をご報告いたします。

両津港ターミナルにおいて、歓迎セレモニーを観光シーズンだけでも実施したらどうか。

埠頭の歓迎セレモニーは、獅子に頭をかませるとか。少し手の空いた従業員が獅子舞のふりをして歩くとかですね。それだけでも良いんじゃないかと思っています。観光協会の方に話しておきます。



佐渡を回ってみて案内が非常に不案内で距離感がない。ただ、立てれば良いものではないので職員も道路標識の立て方を良く研究してほしいと思います。

看板は、合併前の旧自治体では独自で看板を作っていました。歩きますとかなり古ぼけたものもあります。統合したトータル的なイメージも持ちながら整備していかなければならないかと思っています。外国語の文字を入れた標識も何とかしなければならぬと思っています。少しずつ整備しながら、来てくれる観光客の方、また、地元の人を楽しんでいただける整備をしたいと思えます。

地元で取れた食材で、地元ならではの料理など、佐渡にはたくさん資源があるがどこまで宣伝ができていますか。佐渡へ行って良かったと思わせるようなことができていますか。

観光の問題は、佐渡の一次産業と同列に考えられるほど大事な産業の一つです。産業振興の一

つのキーワードとして、交流人口を増やすということがあります。交流人口が増えるという事は、地産地消にもつながり、経済波及効果が大きく期待しています。雇用を始め、他の産業にも大きな影響を与えます。今までは、佐渡全体の施策がでず戦略が不足していました。東京事務所を設置し首都圏佐渡人会に運営を依頼したいと考えています。

佐渡から出た人の意見を聞いて受け入れる仕組み作りをして歴史・文化・伝統等の資産の付加価値により生かしたいと思っています。

観光という資源は未来に渡って、佐渡が生きていくためには非常に重要な部門だと思っているが、市としてどのような体制を整えていっているのか。職員のレベルアップやスペシャリストを育成し、問い合わせ窓口をきちんとしておいて欲しい。

人との交流事業は観光に尽きると考えています。今増えてきているのがグリーンツーリズムトキを中心とした水辺作りのツアー、

それからトレンギング、山歩きや山野草を見るなどです。個人個人が自分の趣味や、想いを込めて触れ合いたい、佐渡で交流を深めたいという観光客がものすごく増えている。そういったものは思い切ったバックアップしようという努力をしています。佐渡の自然・文化・伝統や芸能を楽しむツアーなど良い素材があるのではないかと思えます。柔軟な対応ができるよう、二丁スにあつたものを的確に捉えながら市としても対応し、多くの方に来てもらうのが我々の役目であると思っています。

観光について、市民の意識・観光に対する関心が高くないと、観光客から見た場合魅力が無い。花いっぱい運動とか良い意見を持っている人がたくさんいる。いろいろな考えを持った人をネットワークで結びと予算が無くてもアイデア・ボランティアが出てくると思う。また、佐渡には高齢者がたくさんおり、お年寄りを活用した人的交流の機会を設置し、観光客と触れ合う場の設定を考えて欲しい。

佐渡が二つになつてせんせん連うなと思つたのが、NPOや市民団体の勃興です。行政でできることは限度があるわけで、それを市民の大きな力で市内を活性化させるといふ動きが非常にたくさん出てきています。これは合併の大きな効果だと思つてい

ます。佐渡に魅力を感じて来島するリピーターを増やさなければ、一次的にお金を使つても効率が悪い。気が付かないうちリピーターが増えている。こういったものは本当に価値がある資産だと思つています。ネットワークでアイミング良く、うまく宣伝しようとするれば大きな効果が得られるので、そういった事は行政が応援できると思えます。それぞれの人達の才覚を育てる時代になってきたのではないかと感じています。

その地域へ行つたらその地域で時間を消費するといふ観光。そのためには、リピーターになつていただけるような地域づくりが必要だろつと考える。歩いていただけるような作り方、そういったものを活用する事によって、時間消費型の地域づくりができるのではないかと考えている。

佐渡の観光は様々な問題があるが、やり方はいろいろとあると長期的に佐渡がこれから伸びるころにお金を出していかなければならないと考えています。自分が望むものや自分が趣味として持つ、あるいは美しいものを訪ねるといふ面は、佐渡をきれいにする事と同時に整備していきたい。地域の祭りが島外から来た人を楽ませる。本来の大事な対応の中に、食事がおいしいといふこ

とがなければならぬと考えます。行政が観光を仕切るわけではないのですが、できるだけ観光施設の運営者が、一生懸命行うことを県と一緒で後押しする仕組みに持って行きたいと思えます。

佐渡が生きていくために観光を発展させていく。結果的に観光資源を公共事業・観光産業の名の下に潰している。海岸線。佐渡一周線がテトラポットの山になっっている。山の中に何故か車線道路が必要かという観光客もいる。自分で自分の首を絞めているのではないかと。

海岸線など五、六十年で壊れてきた環境はできるだけ自然の景観に戻したい。しかし、災害は防がなければならぬ。長い年月で壊してきたものはすぐには直らないと思うので、長い目で見て少しずつ元に戻していこうと考えています。

島民が島を誇りと思えるような心を育てていく事が一番大事なのではないかと思う。そこで、一年に一度だけでも島民「ぞうて」行政がリーダーシップを発揮して佐渡の海岸線を大掃除するというような計画ができないものか。佐渡の海岸線をとにかく美しくする。美しい佐渡を造っていくという取り組みができないか。ゴミ拾いをやりたいと思ってる準備をしています。皆さんの意志

が盛り上がりがないとできないのでよろしく願います。去年、漂着ゴミサミットがあり対馬へ行ってきました。日本海沿岸諸国からの人も呼んでその現状を見てもらおうというサミットです。今年が隠岐、その次に佐渡で開催する予定です。

ゴミの分別に関して。ビンと缶の袋が一緒で、いつの間にか間違えてしまう。間違えないようにビンと缶の袋を分けて欲しい。分別リサイクル・リユースの問題は佐渡にとって非常に大きな問題です。今後、手法を変えざるを得ないのではないかと思えます。袋の変更はコストがかかるので、難しいと思います。ビン・缶混在による未回収分の現場を見てみたいと思います。

佐渡では人口1人当たり2万円のゴミ処分費がかかっている。聞き、もっと少なくしたいと考えている。人を育てて、ゴミの分別を勉強していかなければならぬ。地域とか各グループを巻き込んで専門家を育成しみんなで協力して行わないと、と思う。そのためには市からも育成するための補助金をお願いしたい。

ゴミの分別が大事なものは良くわかりますが、なせできないか。たかという、職員の中に専門家がいないというところがあります。他の



仕事も兼務しプロになれない。合併になってはじめてそれぞれの担当が得意分野を勉強し、住民のニーズに応えられるようにしているところ。対応できる体制作りをしていきたいと思えます。

ゴミゼロ運動を5月30日に行うのは観光シーズンにも入りどつかと思う。多すぎて1人でやることも対応できるような量ではないので、もっと早い時期に行わなければならないのではないかと。ゴミゼロ運動は残念ながら間に合わなかったが、ゴミの問題は大変なので、大きいゴミから小さいゴミまであります。佐渡を自分で住んで心地良い島にできるよ。協力をお願いしたい。半面ある程度強制的にやっていたかなければならぬことも出てくるので、協力をお願いします。

家の隣に公園の駐車場があり、

10年以上も放置してある車がある。処分できる方法をお願いします。

市になつたので、今までのような取り扱いはしません。今までは顔見知りであったり、地元の方であつたりとか話しがしづらかったことにより、担当者も動きにくかった。佐渡は美しい島で残していきたい。そのことにより、誇りを持って人を呼べる島になるのではないかと考えます。

各農道・山林・海岸を見ると、廃車・農機具・農業用資材が非常にたくさん見られる。こういったものを市としての、回収大作戦等、銘打ってその地区のボランティアを募ってやってもらわないと、せうかくお客さんが来てくれない。車窓から見ても、みづともない気がするので、見通しをお聞かせ願いたい。

佐渡をキレイにしようとする環境を考える行為と、仕事が無くて佐渡をもつ少し活性化しようという2つの問題は、我々にとつてハズルを取らなければならぬ。非常に大事なテーマであると思えます。外に比べてハンディのあるような状況を作りたくない。本来持っていた宝を無神経に壊してきたツケがここに来てい。だろつと思つています。元に戻すと言つても、人間の生活と共存しながらの施設を変えていくこと、ということであるので、ただ、

昔のままに戻すわけにいかない。時間をかけても今まで壊し続けてきた景観や、自然を元へ取り戻せるような仕組みを考えています。

道路を走つても、空き缶・空き瓶が転がっており。林道は夜になると家電製品その他が沢に向けて投げられていると言つ話も聞きます。車で走つても、タバコの吸い殻をポイと火のついたまま捨てるのを目にします。一市になつたので市長が一声かけて、島民にゴミに対する意識を高揚するように働きかけてもらつたらどうか。

膨大な数が佐渡の山野に捨てられているので、今年から撤去を始めたいと思つております。それから冷蔵庫やなんかを山谷に捨ててあります。いすれにしてもきれいにしないと、またそこへ捨てていいと思つてしまつという事があるものですから。今年から監視人制度をつくりま。人員は少ないですが、少しずつやらないとまずいと思つています。「環境美化条例」を小本も作つてい。ましたし、真野も子ども達の提案でつくりました。環境基本条例ができましたので、思い切つた対応も検討してみたいと思つています。

次号は、環境・離島航路等について掲載します。